

令和3年度 甲賀市教育委員・社会教育委員懇談会
および第2回甲賀市社会教育委員の会議定例会議事録

日時：令和3年(2021)年12月17日(金)

10時00分～12時00分

場所：甲賀市役所3階301会議室

<出席者>

(教育委員) 山脇委員、松山委員、野口委員、藤田委員

(社会教育委員) 姉川委員、山本委員、沢井委員、西村委員、土田委員、宝本委員
坂上委員、上甲委員、井ノ口委員、岡村委員、辻委員 石田委員

(事務局) (教育委員会事務局) 田村次長、乾次長
(教育総務課) 谷課長
(社会教育スポーツ課) 杉本課長、岡崎参事、上村補佐、森地指導員

(傍聴者) 1名

(出席数) 教育委員4名全員出席、社会教育委員13名の内、12名が出席。
社会教育委員の会議定例会は、甲賀市社会教育委員会議規則第3条2項の規定により過半数を満たし会議成立。

○市民憲章唱和

<次第>

1. 開会あいさつ

姉川委員長…前回の定例会で、「地域学校協働活動を推進するために」の提言以後の経過について振り返り、教育委員との懇談会を持ち、これからの学校と地域のありようについての話ができる場を持ちたいという提案があり、本日、教育委員の皆様との懇談会が実現した、との経過説明。

2. 出席者自己紹介…合同懇談会初回により、順次自己紹介。

3. 概要説明… 社会教育スポーツ課杉本課長より

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の推進について」の概要説明

- (1) コミュニティ・スクールと地域学校協働活動とは
- (2) コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進
- (3) 貴生川・土山小学校区のCSの取り組みについて

(4)今後の予定について

- ・コミュニティ・スクール導入校への地域学校協働本部設置の検討
- ・予算措置

4. 意見交換

(1) 進行役の山本副委員長より本日の会議の趣旨説明

「めあて」の共有…「提言のトーチをつなごう」をキーワードにして懇談会を進めたい。

(2) 貴生川小学校コミュニティ・スクール（CS）開設への取り組みについて

モデル校になった背景について

- ・以前から、学校地域連絡協議会なる組織があった。
- ・地域で子どもを育てるという風土があった。
- ・公民館エリアと小学校区が一致していた。

進めていく上での課題

- ・新しい団地が増え、母校意識にたよれない状況が生まれている。
- ・関係委員に長く就いていただける方の育成が必要。

(3) 土山小学校コミュニティ・スクール開設への取り組みについて

モデル校になった背景について

- ・学校長からCSを推進したい旨の強い姿勢があった。
- ・学区に関係する諸団体・機関への働きかけを強めた。

自治振興会、教育後援会、財産区、同窓会、PTA・・・

進めていく上での課題

- ・学校側からの一方的な呼びかけだけでは進まない。
- ・学力育成指導員などの人材が必要。

(4) 質疑応答

- ・どの学校にもCSを進めていける素地はある。
- ・学校側の持っている情報網や指導技術を生かすことが必要。
- ・各々が得意分野で力を発揮することが必要。
- ・一番の目的は何かを共有する。
- ・以前より、CSと地域学校協働活動について考えを巡らせていた。「一体的推進」が印象的だった。
- ・理解から実践の段階に入っている。地域の歩み出しが必要。

- ・提言を行うにあたって、学校教育と社会教育に壁があることを強く感じていた。連携しなければならないところが連携できていないように思う。各地域には、地域マネージャーもおられる。今後さらに、地域と学校が連携を図っていく必要がある。

- ・市内全体でできるシステムをつくりたい。
- ・組織の形骸化を防ぐためには、同じような組織を整理統合することが必要。
- ・市として、学社の協働をどう進めるのかについてのリーダーシップが必要。
- ・教育委員会としての方針があって、社会教育委員のアドバイスがあるというプロセスがいいと思う。
- ・教育委員会には、行政の壁があるように思う。教育委員と社会教育委員間でも壁が感じられた。それぞれに「何を求めているのか」が共有できていなかった。
- ・コーディネーター（橋渡し役）がどうしても必要。現場を見る。
- ・テーマが大きすぎて、何について話せばいいのが難しい。
- ・それぞれの機関が役割でなく思いを持つことが大事。
- ・地域の役割も大きい。地域内での世代間交流を進めたい。子どもは、群れて遊ぶ中で成長していく。子ども同士の育ち合いにも目を向けたい。
- ・動く社会教育委員のことばかり、委員が学校の中に入ってアドバイスもしていけたらと思う。

(5) まとめ

- ・事務局より、本日の懇談会への出席や教育委員会へ助言をいただいたことに対してのお礼。
- ・各委員が感想をカードに記載する。

5. 事例研修

(1) コミュニティ・スクール構想について

- ・土山小学校立岡校長から、同校のこれまでの設置プロセスについて説明を受ける。
- ・「地域の力を学校へ」「学校の力を地域へ」「企業とのコラボ活動」の3本柱を立てて、学習の推進、まちづくり協議会事業への参画、そして、町内各企業との共同活動を行っている。
- ・学校評議員、自治振興会、地域学校協働活動推進員、教育後援会、山林財産管理会、同窓会、企業の代表者が学校運営協議会の構成員となっている。
- ・学校運営協議会が機能することにより、土山ならではの学習が充実するとともに、学習の成果を地域に還元することも進んできた。
- ・保護者をはじめ、関係者を最大限活用することによって、企業とのコラボも

スムーズに進むようになった。

(2) 質疑応答

- ・CS立ち上げ当初に配慮したことは何か。
- ・学校評議員選考時から、CSを意識して、まちづくり事務局や主任児童委員などの関係者に就任を依頼した。
- ・学校の経営方針等、学校からの提案につき承認をもらうため、熟議ができる場づくりに努めた。
- ・ICT教育推進のため、補助金事業に手をあげ、取り組みを強化している。

6. 前回の提言書について

- ・事務局より、前回（平成28年3月）の提言書「地域コミュニティにおける社会教育（公民館）の役割について」説明。
- ・今後、公民館が地域市民センター化、またはコミュニティセンター化していく流れの中で、中央館と、その周辺のサテライト館のすみ分けについて、この時の提言書でご提言いただいていた。社会教育や生涯学習とまちづくりが一体となっていく中で、窓口機能や事務局をどこに置くか、また名称なども含め、議論が行なわれているところである。

7. 閉会

閉会の挨拶 山本副委員長